



はなびより

お花見に最適の、晴れて穏やかな日和を「花日和」と言います。明るさを増した春の青空は、桜色がひととき映える色ですね。春を待ち望んだ桜も、こんなお天気を歓迎しているのではないのでしょうか*

花日和にちなんで、私たちにっては「葱日和」という言葉がぴったり。春の花と同様、畑の葱の色がひととき映えて見えます。

冬を越え、春の季節を待ち望んでいた畑のねぎたちが、とても気持ち良さそう。葉の部分が芽生えかけいらい、大切に扱いつつながら収穫しようとして農人たちの背筋が伸びます。



気温があたたかく、ねぎの花とも言われる「ねぎ坊主」たちもちらほらと咲き始める畑も出てきました。ねぎ坊主が完全に咲いてしまうと葉が固くなってしまいますのでこれから要注意です。

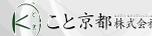
古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.155

2020年4月号

TEL: 075-601-0668



今月の

ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語(事)を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

青空の下ですくすく伸びる、春葱のお届け

先月から「春葱」のお届けが始まりました。主に、昨年11月頃に定植した葱になります。4・5月は葱坊主が出てくる季節ですので、その対策として例年より定植のタイミングを遅らせました。そのため、生育が間に合うか心配もありましたが、3月中には収穫できる程に成長スピードが早く、冬を超え春の陽射しを浴びた春の葱をお届けすることができました。畑は、空の淡い水色と葱の色のコントラストが綺麗な風景。そんな情景を思い浮かべていただきながらご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

お天道様に合わせて計画

春先は、収穫以外にも畝立て・定植と夏に向けての準備を同時進行で進めています。今年は雨が定期的に降り、なかなか計画通りにはいかず、予定を変更する事が多くありました。ただ、ねぎの事を考えると少しでも良い土の状態に畝を立てる必要がある



機耕が入れない畝では農人たちが丁寧に手で植えています

ので、農人たちは焦る気持ちを抑えてそのタイミングまでグツとこらえて、好転するのを心待ちにしていました。



↑春のこの時好ましく育ち、種から育てたセル苗たちがスタンバイ

定植は、夏のメイン圃場となる亀岡や美山の地域でも行なっています。面積が広く、日々コツコツ植えています!!

4月は、新しい仲間が入ってくる季節です。ちょうど1年前に入った独立研修生3名は、この1年でたくましく成長し、収穫業務から栽培業務へと各地域へ別れて配属されることになりました。そして、今年もフレッシュな4名の仲間が加わり、1人前の農人になっていくことに期待しています。

この1年が、農人たちにとってとても楽しみのある1年になる気がして、ワクワクした心持ちです。

